

令和5年度第2回学校教育審議会 議事録

令和5年11月21日15:00～

市役所北庁舎 A会議室

〔出席委員〕 山下千之 藤本直子 名越和範 西坂千代子 明德一志 岩本善文
 河野有兵 梅谷友美 坂田紘理 和田一進 加嶋慎一 嘉戸浩二

(敬称略)

1 開会	
事務局 教育長 会長	開会 挨拶 挨拶
事務局	出席者および出席人数、会の成立について確認 資料確認 日程および内容の確認
2 協議	
事務局	成徳小学校の校名変更に係る経緯について（説明）
会長	ありがとうございました。事務局からの説明を聞いて、ご意見、ご質問または感想でもよろしいのでいただけませんか。いかがですか。
委員	すみません質問よろしいですか。公募アンケートとそれから投票アンケートの回答率はどれぐらいになりますか。
事務局	はい。公募アンケートですが、まずは校名を出していただくアンケートが応募総数121件ということは伝えさせていただきました。対象家庭が349家庭ございますので割合にして大体35%ということになります。それから投票の方でございますが、同じく対象家庭は349に対して投票総数が190件であり、52.4%となっております。
事務局	ちなみにですが、小学校に通っておられる児童さんのご家庭で67.3%。未就学の方が少し参加率が低いということで29.7%という比率となっております。
会長	ありがとうございます。よろしいでしょうか。 いかがでしょうか、ご意見ご質問ございませんか。
委員	そうですね、諮問理由にもあるのですけれども、灘手地区の住民、保護者から強い要望があったということですから子供たちの方からも要望があったということでしょうか。
会長	いかがでしょうか。
事務局	そうですね、保護者の方からの意見はやはり多かったです。子供たちはどちらかというところ統合の方が、新たな学校になって他の子達と一緒にするという所は気にはしていましたけれども。校名について心配の声は子供たちの方からは多くは出ていませんでした。
委員	はい、ありがとうございます。
委員	感想になるかと思いますが教育委員会の方針を述べられ、その方針に従って保護者児童等にアンケートを取られ、そして投票していただいているというそういう過程を通して、先ほどもあったような回答率もありますし、そういうことも踏まえればここに挙がっている校名でいくのが良いのではないかなというふうには感じさせていただきました。
会長	私は明倫地区なので、仕事をしている関係上皆さんからお声があつて、最初から明倫地区は結構打吹が良いというような巷の噂というのが入ってきておりました。一応これなら妥当なかなと思ったというのが私の感想でございます。
委員	児童保護者の考えを反映させながら手続きを進め、最終決定として保護者の家庭のアンケートで決定されているということなのでここに挙がっている校名がふさわしいとも思いました。
委員	先ほどからありますけれども分かりやすい方針の元でそれにきちんと則った候補ですので問題ないかなというふうに思っています。

会長	<p>先ほどの説明で最初はひらがなというようなことも出ておりましたが、漢字の打吹の方がずっと地域として親しんでいるということもあろうかなということが分かりますし、全国的にも打吹、この漢字を書いて打吹(うつぶき)というのは、まず、ないかなと私も思っております。良いかなと思いますが、その他ご意見ご感想なりよろしいですか。それではこの校名打吹小学校に対しまして諮問が出ておりますが、皆様にご承認いただけますでしょうか。ご承認の方は拍手をお願いします。</p> <p>～拍手全員～</p> <p>それでは成徳小学校の校名変更について打吹小学校への名称変更ということで教育委員会の方には答申を出させていただきます。</p>
事務局	<p>お時間ありますので補足といえますか、灘手地区の住民の方、それから保護者の方からは、年度の中途での名称の変更が出来ないだろうかというご意見をいただいております。やはり年度途中での諸手続、それから教職員にとっても児童にとっても年度途中で名前が変わるといことストレスと言いますか、そういったことも鑑み、また、国とか県の方にも当然届け出等も必要になって参りますので、そういったことを総合的に考え、年度途中での名称変更は難しいだろうということで、新年度4月1日からの名称変更が適当、ふさわしいだろうという判断をしたところでございます。灘手の保護者からは年度途中で子供が、学校の名前が変わると思っている児童もいるんだけどというような声が説明会等をしたときにもあったのですけれども、そこについては児童対象の説明会をきちんと開いて説明をしますということで、9月末に説明をしたところでございます。</p>
会長	<p>はい、ありがとうございます。お手元に届きましたでしょうか。それでは答申案について読み上げさせていただきます。</p> <p>令和5年11月21日倉吉市教育委員会 様 倉吉市学校教育審議会会長 山下千之 倉吉市立成徳小学校の「打吹小学校」への名称変更について（答申）（案） 令和5年11月6日付倉教総第954号で諮問のあったこのことについて、諮問案どおり倉吉市立成徳小学校の「打吹小学校」への名称変更について、適当と認めます。 以上ですがよろしいでしょうか。</p> <p>～賛成全員～</p> <p>それでは、このように答申させていただきます。</p>
3 報告	
会長	<p>では、3番の説明に入ります。</p> <p>これより、個人情報等秘匿性の高い情報が含まれますので、傍聴、報道の方は退席をお願いします。</p> <p>次は令和5年度の重点施策に基づく実施報告（中間評価）の説明となります。3番の資料をご覧ください。</p> <p>事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>倉吉市教育委員会重点施策に基づく実施計画の進捗状況（中間評価）の説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会が協働し学び続ける環境づくり 2 創造性を培い、自立性・自主性を養う学校教育の推進 3 安心・安全な教育環境の充実 4 たくましく健やかな心と体づくりの推進 5 文化資源の保存活用と文化・芸術の振興
会長	<p>ただいまの説明を受けて、項目毎にという形にはしませんが、お気づきの点や、例えば学校公開の感想であったり、教育講演会にご参加いただいた方もおられますし、そのような</p>

	ことについて、意見が聞けますと嬉しいですし、ご質問もありましたら是非お願いいたします。いかがでしょうか。
会長	学校公開にみなさん行かれましたでしょうか。受けられた側の方もあると思いますが。学校公開に何校か行かせていただいたところ、コロナ前は挨拶が良かったのですが、コロナの3年間で過ぎると、ちらっと見ているような姿で、そんな様子もありました。今、高校生の方が挨拶を小中学生よりするという状況があると思っていて、最近も何校か行きましたが。いかがですか。コミュニケーションが、コロナの間、子供たち、外に出て遊ぶという姿も残念ながら少なくなって、体力も落ちているだろうなということも感じています。みなさんいかがですか。子供たちを見られて。
委員	地域であまり子供は見えないです。コロナ、インフルエンザ等で学校は本当に大変な状況にあったのだと感じられます。大変苦勞されたと思います。今も続いている感じだと思います。
会長	園とか学校とか本当に病気への対策は大変なことだったのだらうと思います。引き続きあるのですけれど。3年間、修学旅行も他県に行けていなくて、3年間がマスク生活。これから、コロナの3年間の中で、少し落ち込んだ部分をどう復活させるのか、大きな課題だと思っております。人間関係づくり、仲間づくりという点でも、非常にご苦勞があるのではと思うのですけれども。
委員	園でアンケートを実施されていて、ここ最近の3～4年間は結構厳しい意見が多かったです。保護者が園に入れないとか、子供たちの表情が見えないという不満が、アンケートの中に多くて、先生方もしんどいのではという内容もありました。今年の分については、本当に良い意見、優しい意見がたくさんありました。先生たちの職場環境にまで、大丈夫なのか、人は足りているのか、といった意見もあって、ある意味、親御さんが満たされているのかなど。コロナから脱却して、いろいろな意味で満たされて、子供たちの成長だとか、保育というものに目が向いているのかなどという感じを受けて。とても良いことですし、いい流れになってきたなと思いました。 学校の一斉公開にも行かせていただきました。フリーパスで入れるというのが、とても良いところだと思うのですけれど、昨今の事情を見ると、1人ぐらい入口に立たれて、目があつた方がいいのかなと感じました。良さでもあり怖さでもあると思います。
会長	そうですね。一声あるとよいかもかもしれませんね。
委員	そうですね。不審者事案も多いですから。
会長	いかがでしょうか。コロナの3年間。
委員	PTAとして抱える課題も大きくなりつつあります。学校の環境については、一斉公開に行かせていただいて、市内全てまわらせてもらいました。学校によって、先生の質が。子供たちを大切にしているのだらうなという学校は、子供の笑顔があふれていますし、その反面、教員の思いで進めている学校は、子供たちの笑顔が見られず、これが、小学生や中学生なのかというのが現状で。コロナ禍に直面した子たちは、マスク生活を過ごして、マスクを外すことに抵抗があつたということもありますが、徐々に薄れ、表情を見ながら生活ができることのありがたみを感じたり、マスクを外して楽しい生活ができたりすることもあり、その中で、人との触れ合いというのが、コロナの3年間でなかったというのが1番大きかつたのではと感じます。保育園の時に直面した子と、小学校6年生の時や中学生にかけての時に直面した子の差というのはすごく大きい。大人が関わろうとしても、反発とか切ろうとするところがあつて、そのあたりの関わりというのが、家庭の中でもしていかないといけない部分であると思いますが、地域の目があつたり、保護者のあたたかい目がある所で、育っていくのが大事だなと感じた学校公開でした。学校によっては、教室から飛び出している子がいる学校があつたり、騒いでいる子がいたりする学校もあつたのですけど、教員の目が足りないのか、子供が野放しになっているという状況が地域からすると、学校が放っておいているというような印象の話聞くこともあつて。PTA等、さまざまな方面から話も聞きます。やはり、教員不足だということも分かるのですが、子供た

	ちが何を求めているのかというのを、学校の先生が寄り添っていける環境づくりというのを、保護者も共にしていかななくてはいけない事ですし、一緒になって取り組んでいく課題だと思っています。
会長	ありがとうございます。 教育を考える会をそれぞれ取り組んでおられると思うのですが、地域全体で応援するとか、子供の育ちをサポートするという仕組みをつくっていくというのが、教育を考える会の目指さなくてはいけないところかなと思っているのですが。10月28日に教育講演会をさせていただいて、市人研からも内容を提案したのですが、その中で、皆さんが感動していただいたのは、多分、いろいろな子供たちがいるけど、誰一人外さない、包み込むということと、地域がすごく応援してくださるシステムができあがっていたのかなと。学校をみんなで作っていくというところで。
委員	今年、4年ぶりに開催というのが多くて、コロナ禍で大きなものをたくさん失っているということを実感しています。この3年間で、人との関わりという部分が抜けてしまっている部分があるというところ、これが、私もこの3年間で、大きなものを失っているのだなと思いました。「みんなの学校」という映画で、ここまで見せて良いのかなと思うぐらい、1人1人の配慮の必要な児童に対して、真剣に、校長先生がリーダーシップを発揮しながら、学校の職員が試行錯誤しながら、1人1人の子供たちが、本当に生き生きと変わっていく姿を見て、感動しました。教員の質というところを言われましたが、それぞれの教員自身も力量は違うと思いますが、チームで高め合っているのですけれども、どうしても配慮の必要な児童たちが、どの学校にもいると思います。そういったところで、いろいろと対応に苦慮している学校もあると思います。その時には、学校だけではなく、地域、保護者の方の協力とか、人材とか、そういったところで支えてもらわないと、なかなか克服できない部分があると思っています。それぞれの学校がいろいろな課題を抱えています。とにかく1人1人を大事にして、対応していかなければいけないと思っていますし、課題を克服しながら、学校の運営をしていきたいと思っています。
会長	地域の方では、学校との関係をもう一度作り直すという所にきていると思うのですが、いかがでしょうか。
委員	読み聞かせで小学校に関わらせていただいている、コロナ禍でなかった時期もあるのですが、学校によってはおとなしい所があります。外部が入ってきても挨拶をするのに抵抗があったり、学校によっては、車が止まって横断歩道を渡るときに、運転手に向けて礼をして、ありがとうございますと。その地域の伝統なのでしょう。
委員	他の学校もしています。
委員	すみません。その学校がきちんとしているという印象があったので。伝統的にそういう指導をされているのかなと思っていたところがあって。
教育長	市内の小学校は全てしています。
会長	学校の安全ボランティアとの関係で、学校に近くなると大きな声で挨拶をするけど、自分が立っているところでは挨拶が減っているという意見があったりするのですが、その度に、繰り返し、できるようになったらいいねというところで、反省もしながら進めていくということで、ずっと言い続けられないとできないので。そういう繰り返しだとは思いますが。地域の中でというところで、園と学校がずっと内向きになっていたのを、どうやって外に向けてつながりをつくっていくかといけないうところに、今きていると思います。もう一度、地域と力を合わせてというところでいくと、内向きではなく外に向かっていくというところで、つないでいかないといけないと思いますし、おそらく保護者もそうだと思います。今まで、参観日の姿を拝見していると、すごく久しぶりに会って、友だちとたくさんしゃべることができる、しゃべることができなかったのが、しゃべることができるようになったと、すごく嬉しそうにしておられる。地域も同じです。町内学習会でいくつかの町区に出させていただきましたが、少ない人数でも、出てこられた方はよく話をされます。話ができたことだけでも、今日は良かったということをおっしゃっておられて、や

	<p>はり、リアルな対面で話がしたいというところは実感しておられるのかなと思います。そういう場を、いかにして提供していくかということと、どうやってもう一度つながりを作り直すかというところを、これから、子供も含めて、子ども家庭庁が発足して、「こども基本法」ができて、子供の声、意見を吸い上げましょうということが出てきました。子供が真ん中の社会。今はまだ、子供は真ん中の社会になっていないというのが正直私の感想です。子供たちが、平素から家庭の中でも学校の中でも、もっと自分の言いたいことが言えるという、あるいは、すくいあげてくれるという、そういう環境があるのかなという、まだまだできていないのかなと思います。それから、大人と子供で分けてしまわないで、大人と子供と一緒に活動するというところをつくっていかないと次世代育成はできないのではと思っています。最近子供たちに聞きますと、テレビを見るの？新聞を読むの？と言うと、見ません、読みませんと言います。何をみているのか聞くと布団をかぶってYouTubeを見ていますという答えが多いです。10月から11月にかけて高校の人権教育LHRを見させていただいたのですが、タブレットを使っていて、どれが正しい情報か、この子供たちはどうやって判断しているのだろうかかと疑問にもちました。正しい情報、判断、そのあたりも使う以上はしっかりしていけないといけば、新聞とかテレビとか、いろいろなメディアの情報も仕入れて、自分で体験も含めて五感を使って確かめていくという作業が必要かなと思いつつ、大丈夫かなと思いました。</p> <p>いかがでしょうか。ボランティアの活動について、聞くところによると、中学校でされていることがあるとか。</p>
委員	<p>地域とのつながりという部分で、生徒会が中心となって、地域貢献活動の企画をしています。夏は8月に実施したのですが、12月の年末にコミュニティセンターの大掃除に協力させてもらったり、コミュニティセンターの事業で枯れ葉を腐葉土にする取組をしておられて、そこに中学生を出していくということで予定をしています。次は12月20日に決定したので、子供たちが、コミュニティセンターに自分で電話をかけて仕事の中身や必要な人員の数であるとか、そういった打合せをして、役割分担は中学校の方で子供たちが自分たちで振り分けて、当日には、昼からそれぞれのコミュニティセンターで活動するといったことを仕組んで行っています。単純に、ボランティア活動ということで人を集めることもできるのですが、地域とのつながりを意図的につくっていかないと、今の子は難しいのかなと思いますし、学校と地域が連携しながらやっていくことは、これからますます大事になるだろうなと思っています。子供たちも、打合せをする係になった子などは特にそうですが、～の～さんとはということで、コミュニティセンターの職員の名前を覚えて話ができたり、コミュニティセンターに行くと、この前～君が電話をかけてきてくれて話をしましたよと報告をしてもらったり、そういうことでのつながりはできてきていると思いますし、コミュニティセンターも、運動会だとか文化祭といったものが戻ってきています。そこに、中学生の姿が見えるようになってきて、広がりが出てきているのではと思っています。そういうことで、学校は地域とのつながりを大切にしたいなと思って取り組んでいるところです。</p>
会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>中学生も高校生もいろいろ活動してくれると嬉しいです。</p>
教育長	<p>地域とのつながりで紹介したい例があります。上小鴨小学校で地域学校委員会の会議に小学校6年生が参加した例があります。1年間どんな取組をしたのかということ、校長ではなく子供が報告し、さらに話し合いが為されて、グラウンドゴルフ大会が実現したと。子供たちから地域のみなさんと何かしたいということがあって、今年実現できたという報告がありました。毎月の校長会でも、地域学校委員会に子供を同席させることはできませんかということ伝えていて。こちらからしかけて、場面をつくっていく努力をしていかないと。コロナの為にせつかくできていたつながりが少し薄くなったかなと思っていましたが、大分戻ってきている感じはします。</p>
委員	<p>今日の報告の直接や意見ではないのですが、以前、高校入試で、中部地区から中部の高</p>

	<p>校に進む人が少なくなり、東部や西部に行ってしまうことに、問題意識を感じているということで教育委員会からも話があったかと思いますが、高校入試の各科目の平均点を取ると、その中で特に英語が中部地区が低いと意見があったということで。それは、中部地区全体が低いのではなくて、受験校の平均を出すわけですから、そうすると、東部、中部、西部とあって、そして、中部地区が低かったとなるわけです。中学校在籍の生徒で見ると、そんなことはないというところも感じたわけですが。しかし、それは、ある意味別の問題ではないかと思うのです。つまり、学習的な面での力なのか、地区外に出てしまうということなのか。受験生なり家庭の望むことでいくわけですから、考え方としては、自分の特徴あるいは能力をもっと伸ばしたいと思って行くわけです。そういうことを考えた時に、中部に選択肢がないということです。これは中部地区の大きな問題ではないかと思うわけです。例えば、象徴的なのは、中央育英高校で、生徒が集まるように取り組んでいかれるようですが、これは中央育英だけの問題ではなくて、地区全体の問題だと思います。15年ぐらいすると、高校がなくなり、少なくなつて、もう無くしてもいいのではないかと、1つぐらいは残した方がいいのではないかという話が出てくるのではと。そういう状態に中部地区がなっているのかと。学校教育において、基本計画を立てて取り組んでおられるのは、どこも一生懸命やっておられますし、立派ですが、こういうことについてどこが取り上げなくてはいけないかという時に、高校の問題だからということなのか。やはり、中部地区でこれは問題だと思った時に、どういう取組ができるかということについては、連絡を取り合つて、問題がどこにあるのか、それを是正するためには何ができるのかと。そういう話し合いの場をどこかつくらないと、10年15年経つてみたら、あの時動けば良かったということになりかねないので、とても気になるところです。1つ1つの科目が良くて喜んだり、逆に頑張らなくてはならないとなったりすることはあるのですが、全体として見た時に、中部地区が将来的に明るいのかなと思うときに、明るい見通しがもてないと。そのためのアクションもまだ起こっていないと思うのです。そういうことを、教育審議会からでも、こういう課題をどうやっていくかということで、組織をまとめていくというか協力しあって、いろいろな人の知恵を使って対策をしていかないといけないのではないかということを感じております。</p>
教育長	<p>現状での捉え方を少しご説明します。まず、中学校3年生の英語の力は低いです。東部、西部に比べて低いと思っています。打てる手は打ってきているところですが、なかなか結果がうまく出てこないところがあって、鳥取県全体の中学校3年生の英語全体も、全国と比べて低いというところがあって、県教育委員会が県全体の英語の力をあげる努力をしておられます。その中でも、倉吉は東部西部と比べると、低いと感じています。継続して、打てる手は打っていきたいと思います。それから、高校の進学の数ですけど、倉吉市内だけの中学生で見ると、ここ5年間、少しずつですけど中部の高校に進学する率は高くなっています。この春で87%ぐらいの中学校3年生が中部の高校に進学しています。これは、中部全体の中学校3年生で見ると、東部西部に行く割合がかなりあるので、倉吉だけで話をしても解決しないと思います。中部の1市4町でどう動くか。中央育英では今動きがあります。北栄町の動きに倉吉市がどう加わっていくのか。湯梨浜町として、琴浦町として、三朝町として、そういった動きがいるのではと思います。もう1つ付け加えると、ここ5年間の中部の高校への進学率が少しずつ上がっているのは、中学校の努力です。</p>
委員	<p>中部に選択肢がない中で、中部にと指導されるのもどうかと思います。自分がしたい部活動がない中で、中部に行けと言われても不可能なことであつて。</p>
教育長	<p>それはそうですね。</p>
委員	<p>選択肢がなくなっているということが根本的な原因であつて、子供を育てる側からすると、ずっと取り組んできたスポーツや文芸を中心に選びたいとなつた時に、中部にそれがなければ東部や西部、県外に出すのも1つの選択肢としてあります。</p>
教育長	<p>それを否定しているわけではありません。</p>
委員	<p>中部の高校は良いと言われるけれども、ありがた迷惑ではないかとも思います。指導され</p>

	る先生にもよりますが。
教育長	部活は仕方がないと思っています。
委員	おっしゃられていることは当然だと思います。選択肢に残るようなことをどうやったらできるかと。
委員	それは、子供が何を求めているのかということを知ることではないでしょうか。子供が、自分はどうやったらこの中部で、そういう高校があれば行きたいなという理想というか、子供たちの思いを汲み取っていかないと。大人だけが話をしている、そこに子供の意見の尊重がないのでは。
委員	子供の意見を聞かずにやった方がよいわけではないです。やはり、子供が、何を望んでいるかという調査がないと。そうすると、部活動の幅が広いと思えば、小規模校ではできないですね。すると、どうすれば1学年の人数が多い状態にできるかとか、そういったところに話がくるわけです。県に対しての要望とか、次に起こるわけです。
委員	現状、鴨川中学校は部活動が少ない状態で、子供たちはクラブチームに入っている現状が多いです。
委員	小学校から中学校の段階ですね。
委員	そうです。その段階で選択肢がなくなるので。
委員	すみません。高校のことをイメージしていたので。
委員	ずっと続けていくわけじゃないですか。小さい時からの積み重ねがあって、高校に行くわけですね。
委員	ということは、中学校に行く時に、選択肢がないので、別のところということですね。昔からそういったことはあったのかもしれませんが、増えているということは、何かしらできることを考えていかないといけないのではという意見です。
会長	<p>家で話をする時に、何がしたいかとか、どういうところに見学に行ったところで魅力を感じたのかとか、やはり、いろいろな学校に体験入学をしてみて、すごいと思うところがそれぞれの高校にどれだけあるのか。それを、中学校の先生もどう子供に伝えてくださるかということがあるかないかなど。子供に聞くと、点数で振り分けられると。それぞれの高校に魅力があると、話をするのですが、結果、懇談会をして、これくらい(点数)ですからここにというようなことを言われると。そのあたりの進路指導を先生方のスキルというか、前は県内で選択する時代ではなかったのが中部で選択ということもありましたが。魅力がある学校をどうやってつくるのかという、あの高校に行ったら面白いねと、ドキドキするねと快感がないと子供の能力は伸びないと思います。だから、この学校すごいなと、高校生すごいなと、ここに行こうかなという風になっていくと思っていますので、そのあたりは、学校任せでもなく、保護者だけでもなく、一緒に協力をしながら、子供の思いや考えを探りながらやっていかないといけないところかなと思います。まだまだ家庭の中での会話も、もしかしたら不十分な場合も多いのではないかと考えているところですね。</p> <p>魅力ある学校づくり。この教育基本計画を立てた最初の頃にも、「行きたい学校」とあり、本当に行きたい学校になっているのかということを確認しないといけないかなと思いますし、本日、施策の中間評価ということで、いろいろお話いただきましたけど、人間関係づくり、仲間づくり、クラス、学年、学校、そして、地域とのつながりと。地域の中に学校があるのですが、もっと地域の力を借りて、学校の中に入ってきてもらうことも必要なのではないかと思っています。ボランティアで協力して下さる方がいれば、どうぞどうぞと。そういうことをやっていかないと、地域にある学校を、あの学校は魅力的だなと感じてもらえる場所にしていかないと。小中高ともに。園の選択についてもそうだと思います。今は、インターネットの中に評価が出ています。そういう時代でもあります。地域に求められる学校でないといけないかなと思いますし、「みんなの学校」で見えていただいたように、地域の人が、この学校を育てましようねという風につくっていかないと。子供たちも、地域のいろいろな人に出会わないと、地域に残ろうと思わないと思って</p>

	<p>います。</p> <p>みなさんでもう一度議論を深めて、学校改革、地域の再構築、園をつなぐということをや っていかないといけないと思います。</p>
委員	<p>非常に大きな話ではあると思います。今、地域のつながりとか、地域の再生という話がある のですが、県の事業の中では、中部ではないですが、探求学習というものを先進的に 進めている取組があります。探求学習については、従来の総合的な学習の時間とリンクす るところはあるのですが、実社会での課題解決、そういうところの課題というものを、 子供たちが自分たちの生活の中に課題を見出して、それに向けて課題解決のために学習を 進めていくという取組をしているところがあります。これは、恐らく次回の学習指導要領 改訂では、この探求学習が中心になっていくだろうと思われています。その時に、実社会 での課題解決とか課題解決学習となった時に、子供たちにとっての実社会というのは、居 住している地域が中心になっていきますので、そこで、いやが応にも、地域とのつながり というものは意識をしながら進めていくこととなります。今、地域に開かれた学習過程と いうのが中心になっていますが、そこで、教育活動というものを軸としながら、そこに CS(コミュニティスクール)も関わっていく、学校教育も関わっていくとなった時に、大き な教育課程というものを軸としながら、学校、保護者、地域、みんながつながっていく と、そういう新たな学習の形態であるとか、地域学習のあり方とか、そういったものが生 まれてくると思うので、今後、倉吉市でも、そういった探求学習というものに取り組んで いく学校というものが出てきた時に、新しい学びのスタイルだとか、新しい学びの形態だ とか、そういったものが地域とのつながりの中で出てくるのかなと思っているので、県と してもそういった事業をつくっていくことは考えていますので、倉吉市教育委員会と協力 したりしながら、そういった部分を進められたらと考えています。</p>
会長	<p>次世代の人を育成するという意味での探求学習ですね。</p>
委員	<p>そうですね。与えられたものを進めていく学習ではなくて、子供たちが自ら課題を見出し て、子供たちが自発的、主体的に学習を進めていく中で、他者との関わり、自分を見つめ るとか、そういったものを総合的に進めていくことが主流となってくると思います。</p>
教育長	<p>今でも、総合的な学習のテーマは探求ですから、それに近いことは、それぞれ小中学校取 り組んでいます。例えば、中学生が校内文化祭で発表する人権劇というのは、良い探求の 一例だと思っています。子供たちが主体的につくっていく、大事なことだと思っています。</p>
会長	<p>私も、日々人権学習と関わっているのですが、自分を見つめる、他者と自分との関係を 考える、いろいろと探求をするのですが、自分を蚊帳の外に置くのではなくて、中に入 って、自分が、自らが何ができるかということと考えられるようになってほしいという願 いをもっています。また、自分がアクションを起こせるようになってほしいということは 願いとしてもっています。保護者さんにも、より理解を深めてもらうということも、並行 して進めて、学校の取組の目的を、もっと伝えないといけないと思いますので、伝えなが ら、学校、家庭、地域と全てが同じ方向に向かって、まわっていくような仕組みをつくっ て動いていくことが大事かなと思っていますし、子供が中心に、主体的に動くことが できると良いなと思います。</p>
事務局	<p>高校進学の話ですが、倉吉市の中学生は、中部の高校に進学する率は高まっています 。それがなぜかと考えた時に、中学校の努力もあるだろうなと感じています。例えば、 中学校1年生から高校訪問をしておられることもあります。また、興味のある高校につ いて、どのようなことに取り組んでおられるかということ調べたり、これも一種の探求か もしれません。1年生、2年生、3年生、それぞれの学年において、自分のキャリア、高 校進学等に向けて、考える機会をつくってくださっていて、子供たちにとって、高校のイ メージが沸いてきているのではないかと思いますし、高校に対する情報量も増えてきたの だろうと。なので、子供たちにも、選択ができる情報がたくさん揃ってきているのでは ないかと思っています。今後も、進めていきたいですし、また、外からの働きかけもアピ ールできれば、目的に合った高校選びができるのではないかと考えています。</p>

会長	他にいかがでしょうか。
委員	<p>本日中間評価というものをしてもらって、説明していただいたのですが、課題が書いてあると思います。次で結構ですが、課題はどういうものがあり、それに対して何をしようとしているのかという説明があると、この場にふさわしいのかなと思いました。ぜひ検討いただければと思います。</p> <p>それと、審議会がどういう組織なのかということです。本日、委員の方から提案があったわけですが、例えば小中高部活動のことを1つのテーマに据えて、審議会が開催されるようなことはあるのでしょうか。今日、いろいろな意見があって、議論が深まっていないですし、提案されたことが、次に向けて担保されていないですし、どうなっていくのかと。そういったことを、教育委員会の方で考えていただいて、審議会でこういう話をして、1市4町での方向付けを出してもらうのを、この場で教えてもらえるようなことが工夫できるようなことがあれば、また、そういうことをしてもらえればと思います。</p>
事務局	ありがとうございます。
会長	<p>ありがとうございます。次へのステップにつながればと思います。</p> <p>課題は山積みというか、コロナ禍の3年間で、子供たちの格差も広がっているように思います。そこを、どうやって格差を埋めていくのかということも課題に感じながら、それこそ対話というものを増やさなければいけないのかなと思いつつ、課題解決に向けての動きをやっていきたいなと思います。</p> <p>今日は、いろいろと意見を頂戴しました。具体的な取組になっていけば、よりよい会になり、意義があると思いますので、そういう歩みになればと思います。</p> <p>長時間ありがとうございました。</p>
事務局	長時間ありがとうございました。
閉会	